

設立

2020年（令和2年）9月発足

代表

野口 卓也さん ※2020年度ホームタウンプロボノ参加

主な活動

“みんなが生徒でみんなが先生”となり、それぞれの知識や経験を伝えるイベントの開催

活動のきっかけ

地域の人々の地域参画の入口を作りたい



プロボノ支援

## 事業戦略検討ワークショップ

成果

ワークショップを通して団体の強みを分析し、目指したい姿を整理。今後に向けた具体策も成果物として納品。



### 私たちが考える 大学院の分析

3

地元感を残しながら、  
若者などを増やしていくことが  
今後のありたい姿に近づける。



強み：地元感	弱み：知られていない
<ul style="list-style-type: none"><li>気軽に参加できる</li><li>敷居の低さ</li><li>近所に住んでいる人は参加しやすい</li><li>小規模なところ</li><li>町会と連携がとれている</li><li>講師がでる</li><li>参加費が安くても良い</li><li>地元のことを深く知る</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>まだ1年しか実績がない</li><li>知名度の低さ</li><li>若い人が少ない</li><li>月1・1回開催に固定</li><li>講師の少ないチームで運営している</li><li>地域外の人は参加しにくい</li><li>1日1テーマが高すぎる？</li><li>参加の機会へ若手意識ある方は近寄りたい</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>地元域との人脈の取り合いが少ないので、協力し合える</li><li>若い人が地域コミュニティへの関心が高まっている</li><li>近所に大学がある</li><li>地域の企業がある</li><li>コロナだから運営できないので近場のイベントが良い</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>都合だから地味を重視していない方が多い</li><li>授業だけでなくオンラインサロン、YouTubeで代替できる</li></ul>
機会：若い人のニーズ	脅威：選択肢が増えている

# 活動の目的と概要

【背景】ほとんどの地域には、素晴らしい活動をしている人や団体がいるのに、それらの活動はあまり地域住民に知られていないのではないかと？

【目的】地域にある様々な活動と地域の住民をつなげる

【活動概要】地域で活動しているローカルプレイヤーにインタビューを行い、第三者的視点から地域の住民に情報を伝える

## 主な活動内容

- 地域の選定／コンセプトメイキング
- インタビュートレーニング
- 公開インタビュー×4回
- インタビューメディアの公開
- インタビューメディアの開設・運営ガイドの作成

# 成果物

- WEBメディア（動画配信／note＋youtube）  
[https://note.com/local\\_players/](https://note.com/local_players/)
- インタビューメディア開設・運営ガイドブック（PDF）
- インタビューの基礎知識（メンバー配布資料／PDF）
- インタビュートレーニングガイド（トレーニング用スライド／PowerPoint）
- イベントスライド（第1回イベント投影スライド／PowerPoint）



# 今後の予定

- 現在のメンバーは今後も小平で活動予定
- 次回は3/8（火）20:00～22:00  
ゲストは小平市で様々なイベントを仕掛けている**出口みちたか**さん  
[https://note.com/local\\_players/n/n20a7a156934d](https://note.com/local_players/n/n20a7a156934d)
- 他の地域でも展開できるように、オンラインワークショップを開催



## 1. 研究内容

- 社会的課題が増加し質的にも多様化・困難化しているが、それらの課題の全てを行政が解決することは難しい
  - 行政以外の担い手としては従来から市民の無償ボランティアや慈善型のNPOといった主体が存在していた
  - しかし、無償である事は経済的な限界がある事と等価であり、持続的な活動が出来ないことも多い
- ⇒そこで、『サービス提供者に報酬を提供し持続可能な地域活動がどのようにしたら行えるのか』を明らかにする

## 2. 目的を達成するための方法

- ①自ら収益を確保しながら地域活動等を俯瞰できる中間支援3団体と収益を確保して持続可能な地域活動等を実施している6団体を対象としてヒアリングを実施
- ②その活動を、ビジネススタイル（主として資金源・収入源・提供サービスと費用面）と個人のかかわりの両面から解析することにより、持続可能な地域活動のモデルを考察

## 3. 成果物A:事業継続のポイント【46箇条：団体経営に向けて(ビジネススタイルの視点)】

- ①資金源における工夫（団体立上げ時）【2箇条】例）借入れも事業のモチベーション
  - ②収入源における工夫、継続性を高めるもの、戦略【15箇条】例）財源を行政等に依存すると行政等の下請け化する
  - ③雇用や人材に関する工夫【8箇条】例）継続させるためには報酬とワクワク感、楽しさ、希望が重要
  - ④スキル、ノウハウ【5箇条】例）地元のニーズを徹底的に把握する
  - ⑤提供サービスにおける工夫、独自性【16箇条】社会課題は変化するので、自らの立ち位置の更新も重要
- ⇒持続可能な地域活動を実現するためには、①企業経営並みの経営能力と②多寡は別として報酬は必要ではないか

#### 4. 成果物B:活動参加のポイント【21箇条：個人参加に向けて(個人のかかわりの視点)】

- ①報酬【4箇条】例) 報酬は責任に直結するが、対価のすべてではない
- ②心構え【9箇条】例) 自分事として捉えられることに参加、謙虚さとリスクをとる覚悟を持つ
- ③必要なスキル【8箇条】例) スキルの積み上げは必要だが、相手に寄り添うコミュニケーションが大切な時がある  
⇒個人参加を促進する(モチベーション)ためには、「やりがい×報酬」による対価が必要ではないか

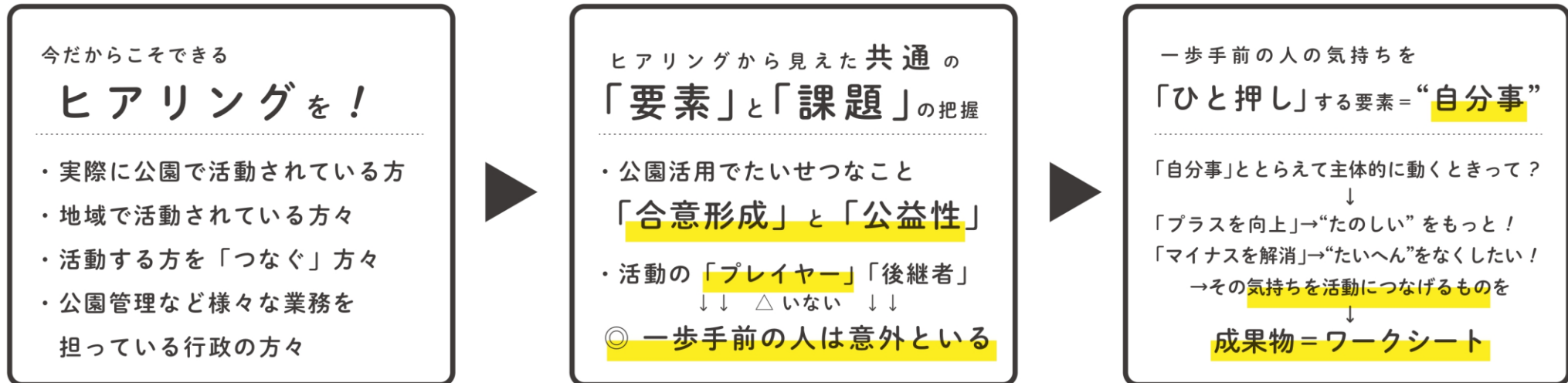
#### 5. 今後について

- ①山田：経済的価値(私益性)起点で社会的価値との共存について検討/地域活動/地域ビジネス/地域経営(協働)に向けた情報発信・情報提供/プロボノとしての経験値を高めてフリーランスとしてのコンサルタント業の副業・独立を支援
- ②中島：これまでの地域活動×業務経験・スキル⇒つながり・居場所づくり、個人の成長支援/運営団体の課題整理・情報発信支援/ITを活用した活動推進支援
- ③田原：地域課題に向き合う仕事で報酬を得ることの大変さを実感⇒数カ月以内に、非営利団体からの業務委託を目指す/専門技術とプロボノ経験を活かした働き方にチャレンジ
- ④白井：持続可能な包括的支援を実現するためには「稼げる地域活動」は必要⇒今後も様々な地域活動団体との交流を深めていきたい
- ⑤町田ヨシロー：まずは既に何らかの地域活動を行っている団体に参加させてもらい、地域活動の実際の苦労や工夫を体験してみる
- ⑥稲葉：ボランティア活動の継続はもちろんのこと、「継続的に稼ぐ」という事を自分事にするためにフリーランスとして活動を広げ、実体験を高めながら将来に向けた整理を進めていきたい
- ⑦佐藤：時間を調整できる環境での在宅就業もトライし始めているので、そこでの経験も積んでいき、又今回の研究で得た学びを踏まえて、持続可能な地域活動を目指せるように今後に活かしていきたい

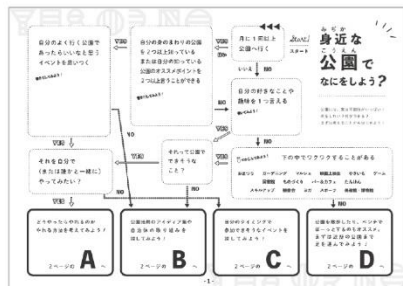
# 研究内容 -About our research-

- ▶ 公園活用に必要な「要素」と「課題」の把握
- ▶ 「ちょっとやってみたい」気持ちを「ひと押し」するのに必要な要素は何か

# プロセス -About the process-



# 成果物 -Deliverables of the project-



自分の想いに気づく



公園 × 自分の関係



もっと具体的に考える



地域の関係マップ

# 今後について -How to use-

成果物を届けたい人

- ▶ ちょっとなにかやってみたい人
- ▶ 活動を“つなぐ”人
- ▶ こどもたち ... and more!

身近な公園をハブとして

たのしさ、生きがい、学び etc...

= 「**プラスの向上**」を。

あったらいいな、こんなこと etc...

= 「**マイナスの解消**」を。



# 研究内容と結果サマリ

①コロナ渦の現状では対面式のサロンを直ぐに開催することは難しい。  
現実に開催できるまでの間に別の方法も模索する。

対面式のサロン以外の方法として、Spatial Chat（ビデオチャットツール）を使ったオンラインサロンを実施した。

【テーマ】1回目：雑談会、2回目：エンディングノート、3回目：終活  
4回目：地域包括支援センターってどんなところ

- ・Spatial Chatを使えば簡単にアクセスできる。⇒開催時に複数のスタッフが必要。
- ・開催時間が決まれば場所は問わない。⇒時間が限定され参加したくてもできない。
- ・テーマを決めれば、参加者が望んでいる内容で進められる。⇒対象者が限定される
- ・集客やアンケートなどはオンライン上で簡単に行える。
- ・アバター参加により匿名性がある
- ・設備不要なので手軽にできる

# 研究内容と結果サマリー

②対面式のサロンをイメージするために、既存サロンの見学やアンケート調査を実施する。

## ★期待すること

(子ども世代)同世代との交流、普段できない遊びの体験

(親世代)異世代との交流、親同士の情報交換、福祉情報の交換

(障害者家族)同じ悩みの共有、利用可能サービスの案内、支援するされるではない対等な関係、

(障害者施設職員)仲間作り、非日常空間 (障害当事者)出会い、つながり、居心地の良さ

## ★希望の空間、雰囲気

(子ども世代)BGM、おもちゃや本・・・が置いてある、飲食可能、靴が脱げる

(親世代)Wi-Fiやテレビ(ビデオ流せる)、バリアフリー対応、駐車場完備

ワークショップやイベントができるスペースと内容

(障害者家族)明るく太陽が当たる環境、羽根つきやバドミントンができる空間、話し相手、重度の障害の方も一緒に過ごせる環境

(障害者施設職員)安全が担保された上で運動ができる空間

(障害当事者)会議室のような殺風景なものではなく、花が飾っているような優しい空間